

市町村名	本部町						
平成29年度（後年度効果発現）沖縄離島活性化推進事業費補助金検証シート							
事業名	水納島環境保全型農業推進事業			事業類型	<input checked="" type="checkbox"/>	産業振興	
					<input type="checkbox"/>	定住促進	
					<input type="checkbox"/>	その他	
担当部署名	企画商工観光課			事業実施（予定）年度	平成29年度		
事業内容	水納島において環境に配慮した農業による農作物の生産拡大を図るため、環境保全型農業に取り組む団体が実施するビニールハウス施設整備に補助を行う。						
先導性に係る取組	<input type="checkbox"/>	自立性	<input checked="" type="checkbox"/>	政策間連携	<input type="checkbox"/>	離島活性化を担う人材の確保・育成	
	<input checked="" type="checkbox"/>	官民協働	<input type="checkbox"/>	事業推進主体の形成	<input type="checkbox"/>	その他	
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度（R1年度）						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「補助金」＋「市町村負担」ベース）		H29年度	H29年度（繰越）				
	(a) 当初予算額	5,471	-				
	(b) 予算現額	5,471	-				
	(c) 増減額 (b-a)	0	-				
	(d) 繰越額	0	5,471				
	A. 計 (b+d)	5,471	5,471				
	B. 執行済額	0	5,471				
	うち補助金充当額	0	4,376				
	次年度繰越額	5,471	0				
	執行率（%）(B/A)	0.0%	100.0%				
予算の状況の説明	当初の計画では、平成29年度内にビニールハウスの整備を行う予定であったが、資材不足による工期延長のため、平成30年度へ繰越した。平成30年度にビニールハウスの整備が完了し、予算執行率は100%となった。						
活動目標（指標）及び達成状況	活動目標（指標）	達成状況					
			H29年度				
	ビニールハウス施設の整備棟数	目標	(1棟)	()	()	()	
		実績	1棟				
達成状況説明	平成29年度内にビニールハウスを整備する予定であったが、資材不足による工期延長のため、平成30年度に整備が完了した。						
成果目標（指標）及び進捗状況	成果目標（指標）		基準値（H28年度）	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
	エコファーマー制度に係る認定の取得件数	目標		(-)	(2件以上)	(2件以上)	()
		実績	0件	0件	0件	2件	-
	整備したハウスでのパッションフルーツ生産量	目標		(-)	(-)	450kg以上	450kg以上
		実績	-	-	0kg	105kg	75kg
	整備したハウスでのミニトマト生産量	目標		(-)	(-)	500kg以上	500kg以上
		実績	-	-	74.15kg	760kg	450kg
進捗状況説明	パッションフルーツの令和2年度生産量は75kgと低調となっている。そのため一部ドラゴンフルーツへ転作を行い、令和2年度は270kgを生産した。ミニトマトは達成予定年度である令和元年度は760kgを生産したが、令和2年度は450kgの生産量となっている。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>○パッションフルーツは気候や土壌等の影響で、育成が悪く、生産量の目標達成に向けた取り組みが遅れている。</p> <p>○ミニトマトは達成予定年度の令和元年度は目標を達成したが、令和2年度は害虫の影響により生産が落ち込んだ。</p>	<p>○生産量の増加を図るため、事業実施主体の栽培技術向上を図る必要がある。</p> <p>○生産量の低調の要因が、地理的なものであればより生産量増加が見込める作物への転作を行う必要がある。</p>
	今後の取り組み方針	
<p>○事業実施主体の栽培技術向上を図るため、特に栽培が難しいパッションフルーツを中心に、県の栽培指導員等を交えた現地指導を実施する。</p> <p>○生産量が増加しない場合は転作により、ドラゴンフルーツなど別作物で収益を確保し事業実施主体の経営安定化を目指す。</p> <p>○別作物へ転作した場合は当該作物のエコファーマー認定を推奨し、作物のブランド化を図る。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
	総事業費	補助対象事業費	補助金充当額	補助対象外経費
	6,696	5,471	4,376	1,225
<pre> graph LR A[本部町 5,471千円] --> B[補助金 5,471千円] B --> C[本部町水納島機械利用組合 6,696千円 (補助金5,471千円、 自己負担1,225千円)] C --- D[水納島環境保全型農業推進事業 (ビニールハウスの整備)] </pre>				

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	事業実施主体は、公募により決定しており、選定方法は妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	予算は業者からの見積もりを基に積算しており、適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	交付要綱で民間団体への補助率は必要経費の9割以内とし、受益者は1割以上を負担しており、事業内容や他事業の負担割合から判断しても妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	費目・使途に関しては、予算要求時に財政担当の査定を受けており、かつ、検収時において確認を行い適正であった。